

シンプルで**確実**なコンポジットレジン修復の**勘**どころ

～シェードという概念のないコンポジットレジン修復の実際～

ここがPoint!

- 接着修復の利点
- コンポジットレジン修復の適応範囲
- コンポジットレジン修復の予後
- 適切な接着操作の勘どころ
- シェードという概念のないコンポジットレジン
- コンポジットレジン修復の実際

講師ご略歴

2006 東京医科歯科大学歯学部卒業
 2006 東京医科歯科大学歯学部附属病院研修医
 2007 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
 う蝕制御学分野 入学
 2011 同 修了(歯学博士)
 2011 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
 う蝕制御学分野 医員
 2013 米国ジョージア医科大学 客員研究員
 2016 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
 う蝕制御学分野 非常勤講師
 2016 トータル歯科東京青井 開業
 2021 東京医科歯科大学 歯学部 臨床教授



高橋 真広 先生
 トータル歯科東京青井 代表
 [東京都開業]

MI (Minimal Intervention) の考えは、我々歯科医師に広く浸透してきている。日常臨床において、より歯質を切削する可能性が高い金属修復はその影をひそめ、小さな咬合面う蝕からはじまり、隣接面う蝕、さらには失活歯の修復など適応範囲が拡大しつつあるコンポジットレジン修復の出番は高頻度である。また、保険診療の制限に捉われない場合においては、審美修復や欠損修復にも適応範囲は拡大してきている。

コンポジットレジン修復は接着修復であり、その根幹を支えるものは歯質接着材料と充填用コンポジットレジンである。これら2つの材料の材料学的な性能の向上によって、我々の臨床におけるコンポジットレジン修復の適応は拡大していると考えられる。接着修復の成功の秘訣は、適切な接着操作とマテリアルの選択が重要である。それらを間違えると、チェアタイムの増加、2次う蝕、修復材料の脱落やシェードのアンマッチなどを招き、患者の満足度を大きく下げることとなる。

本講演では、コンポジットレジン修復について、これら2つの歯質接着用材料と充填用コンポジットレジンの特性を解説するとともに、それらの能力を最大限生かすことで、審美的で長持ちのするコンポジットレジン修復をいかにシンプルに行うことが可能となるかをお伝えしたい。

日時 2022.7.24(日) 14:00～16:00

【Web配信】 医院やご自宅でご視聴いただけます。7月31日(日)まで、振り返り視聴が可能です。

対象 歯科医師(Dr)、歯科衛生士(DH)、歯科助手(DA)

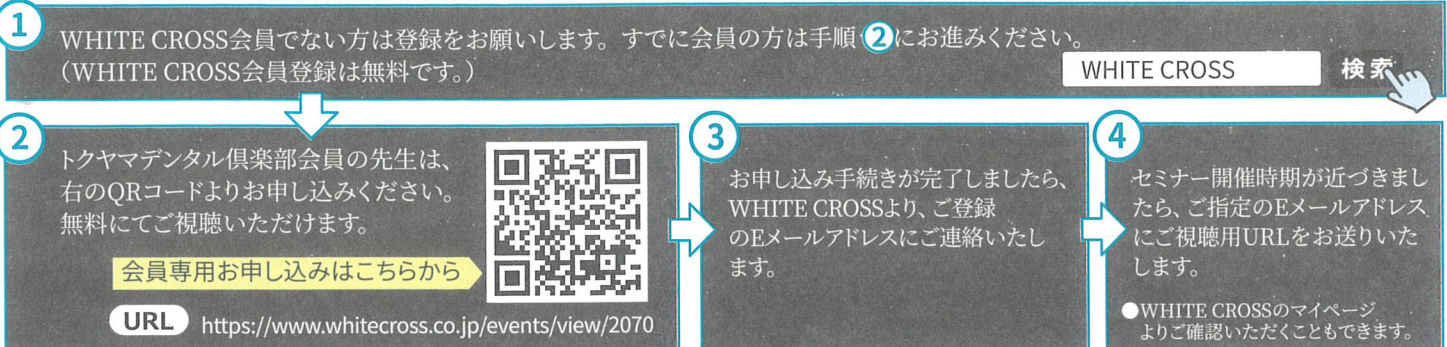
受講料

トクヤマデンタル倶楽部会員 ……**無料**※1
 倶楽部会員のスタッフ(DH,DA)……**無料**※1
 上記以外の方……………**¥11,000(税込)**

※1) 2022年度トクヤマデンタル倶楽部の年会費(税込5,500円)には、倶楽部会員本人とスタッフのWebセミナー受講料が含まれています。

お申し込み方法

※本セミナーは歯科専門情報サイトWHITE CROSSより配信いたします。



【セミナーお申込み・開催に関する注意事項】 下記をお読みいただき、同意の上お申し込みください。

※セミナーお申込み後、配信会社より視聴に関してのご案内がございます。ご案内のない場合はメール未着の可能性もありますので、ご面倒をおかけいたしますが配信会社へお問合せください。
 ※申込欄にご記入いただきました個人情報は、弊社「個人情報保護方針」に従って厳正に管理し、ご本人様が拒否された場合を除いて、製品・サービスのご紹介を含むマーケティング活動に利用させていただきます。
 ※講演会開催につきましては、やむを得ず中止する場合がございます。その場合、通信費等のかかる費用の補償はいたしませんので、予めご了承ください。

株式会社マルヤマ歯科商店